

17日から11月6日まで県立

近代美術館で開かれる「スウ
インギン・ロンドン 50'S
60'S」展を楽しみにしてい
る。今春、同館学芸員の竹内
利夫さんが来て、秋に面白い
ことをするんですよ」といっ
て資料を見せられた。それが
この展覧会で、図録類を拝見
しつつお話を伺つたら胸がと
きめいた。

50、60年代の英國ロンドン
のさまざまなポップカルチャー
にスポットを当てた企画で
ツイッギーのミニスカート、
ビートルズやローリング・ス
トーンズなどのロック、サイ
ケデリック・アート、モッズ
が愛用したスクーターのベス
バなどが展示されるという。
ファッシュンと音楽とアート
と家具と車……、当時の最先
端の若者文化が徳島にやつ
くるのだ。

展示物には英ロックバンド
のヤードバーズ、レッド・ツ
エッペリンのメンバーだった
ジミー・ペイジが所蔵してい
たエレキギター（ダンエレク
トロ社製）や本人愛用のステ
ージ衣装もあって、これが目
玉だ。60年代ロックのLPジ
ャケットもたくさん展示され
る。竹内さんと「アートとし
てのLPジャケットの魅力を
若い人たちに知つてもらえた
らしいですね」と話し合つた

のだった。

ぞめき

また阿波藍メッセとのコラ
ボレーションショード工
夫をこらした徳島独自の企画
もてんこ盛りで、10月16日に
は柳町春雨さんのトークショ
ーがあるので要注目。

この催しは実は「3・11以
後」を背負つている。福島県
の郡山市立美術館では昨年夏
に同展を開いた。竹内学芸員
が打ち合わせのため同館を訪
問した日が、くしくも今年の
3月11日だった。竹内さんは
その日の午後、帰りの新幹線
に乗った直後、東日本大震災
に遭遇、車中での長時間待機
を余儀なくされた。けががな
くて幸いだった。また4月上
旬から5月下旬まで開催され
た長崎県美術館では、会期中
にジミー・ペイジのトークシ
ョーなどが予定されていたの
だが、原発事故などの影響で
来日中止になった。文化風俗
が人間の営みの反映である以
上、社会の影響から完全に独
立することなどありえない。
展覧会もまたしかり。

会期中、何度も足を運んで
3・11フクシマ以後の
四国地方都市から60年
代ロンドン文化を俯瞰
することで、自分なり
に足元を見つめ直した
いと思う。

(幸)

スウインギン・ロンドン